



また、山東地区では米・たばこ・栗・野菜・畜産・養蚕を重点として振興をはかる。この場合、農協の広域合併による管理体制の強化をはじめ、土地基盤の整備、未利用原野の開発、重要作目の選択的拡大等について急がなければならない。

15 矢部郷農業地帯

現況

この地帯は著るしく林野の割合の高い山村であって、古くから農業を主としている。

農業では戦後は、茶の拡大をはじめ抑制野菜・栗・養蚕・乳牛等が加わり動きはかなり活発である。しかしここでは耕



地の多くが山間傾斜地にあるための基盤整備の遅れ、複雑な地形に起因する道路整備の遅れ、多様な作目、農協の多数分立からくる産地体制の弱みなどを内包している。

振興方向

北部原野地区では養蚕・野菜・肉用牛・肉牛・栗・椎茸等、また水田地区では米・栗・野菜・牛乳・肉用牛・たばこ等、さらに南部の緑川上流地区では、米・茶・栗・肉牛・養蚕・椎茸等を重点に振興をはかる。この場合、国営農用地総合開発事業による農地造成、農協の広域合併による生産体制および流通体制の確立等は、農業振興のかなめをなす事柄として甚だ重要である。

16 下球磨農業地帯

現況

県の南部、人吉市を中心としたこの地帯は、古くから農業と林業が盛んであり、近年、これに第三次産業が並ぶに至っている。農業の分野では、米を柱にたばこ・牛乳・肉用牛・養蚕・栗・茶・野菜等が取り入れられ、農業振興への意欲もかなり高いものがうかがわれる。

ここでは近年、農業的に困難が現われている山間部への対策、河川の氾濫による災害の発生、農産物市場立地のハンディなどかなり大きな問題点を内包している。

振興方向

平田地区においては、圃場整備も進み水利も比較的良好であるので、今後は良質の米を基盤に畜産・野菜・い草・たば



こ・栗等、一方、山間地区では、かなりきびしい条件下にあるが畜産・茶・養蚕・栗等を重点に振興をはかる。この場合、農業用水の確保と農地造成を併行した川辺川総合土地改良事業の実施、農協の広域、合併による管理体制の拡充等は、農業振興への眼目として大きく期待される。

17 上球磨農業地帯

現況

県の南部、球磨地域の東部に位置したこの地域は、農業と林業を主としており農業の分野では古くから用水確保および基盤整備に熱心であり、また近年の水稲湛水植物やい草の導入は特筆される。



を担い、とりわけ果樹・畜産・野菜等の部門が盛んである。

しかしここでは、なお農業用水の不足、経営規模の零細性、農産物市場立地のハンディ、若年層を中心とした県外流出ムードなどと、多様な問題点を抱えている。

振興方向

今後はここでも土地利用の高度化を基



本として、北部海岸地区では、無出地帯としての条件を活かしながら野菜・米・柑橘・養蚕・たばこ等を中心とし、一方、中央地区では柑橘・米・畜産・養蚕等、南部地区では畜産・米・柑橘・野菜・養蚕等をそれぞれ重点とする。この場合、基礎的条件の整備とともに、農協の広域合併による管理体制の強化を軸として産地体制の未熟、市場立地のハンディ、貿易自由化等への対策を講ずることが肝要である。

18 若北農業地帯

現況

県の南端にあって八代海に臨むこの地帯は、厳しい土地条件の故にこれまで産業的には少なからぬ制約を受けてきたが、戦後、農業は柑橘を重点に考えられ、現在、「甘夏みかんの里」として全国的にその名を知られるにいたっている。

しかし、近年の甘夏みかんと競合するグレープフルーツの輸入攻勢や、恵まれない水資源に対して、農業・工業・生活の総べてにわたる用水需要の増加等の問題点を内包している。

振興方向

今後は、土地利用の高度化を基本とし



天草島の上島および大矢野島・御所浦島等から成るこの地帯は、天草五橋の開

19 上島農業地帯

現況

て、海岸地区では、全国的に地歩を確立した甘夏みかんを柱にみかん・米・肉豚・子豚等、一方、山間地区では、養蚕・肉牛・茶・米等を重点に振興をはかる。この場合、甘夏みかんにおける十アール当たり収量四・五トン、所要労働時間百四十二時間の達成をモットーとした生産費の引き下げ、農協の広域合併による管理体制の拡充、樹園地への用水の確保等が努力の焦点となる。



通によって大きく変貌を続けている。その産業は農業および水産業を中心とし、これに近年、企業の進出が加わっている。

ここでは、複雑な地形を反映した段丘耕地の分布、道路整備の遅れ、農業用水の不足、経営規模の零細性、農業のみによる自立困難な地区の存在、若年層を中心とした、県外流出ムードなどと、当面している事柄はかなり多様にかつ深刻なものがある。

振興方向

今後は、土地利用の高度化を基本に、上島では柑橘・米・畜産・養蚕・たばこ・野菜等が中心となる。しかし、そのうちの東南部は西寄りを除いて農業のみによる自立には困難が感ぜられる。さらに大矢野島は柑橘・花卉・牛乳・野菜等を主として振興をはかる。この場合、地帯全般として、水資源開発をはじめとした基礎条件の整備とともに、農協の広域合併による管理体制の強化によって、産地体制の未熟、市場立地のハンディ、貿易自由化の圧力等のあらゆる困難の克服が肝要である。

20 下島北部農業地帯

現況

天草下島北部に位置して、比較的恵まれた土地条件に、天草五橋の開通が加わり大きく変貌を続けている。農業面でも意欲は高く、天草地域農業生産の五〇%

ここでは、立地に恵まれない山間地区への対策、市房ダム上流および中小河川の氾濫、農産物市場立地のハンディ、農業生産の選択的拡大の遅れなどが、当面する大きな問題として横たわっている。

振興方向

平田地区においては、土地基盤整備と用水確保の密着をはかり、良質の米を基盤にたばこ・い草・牛乳・栗・養蚕・野菜等、一方、山間地区では畜産・椎茸・養蚕・栗・野菜・茶等を重点に振興をはかる。この場合、川辺川総合土地改良事業による球磨川右岸の灌漑や清願寺ダムの建設、また農協の広域合併による管理体制の拡充等は、農業振興を進める上での眼目として注目されるところである。

21 下島南部農業地帯

現況



今後は、土地と用水の高度利用が主題とされ、先ず羊角湾の周辺では柑橘・米・野菜等を中心とし、一方、西海岸では急傾斜と強風への対策を講じながら柑橘・畜産・野菜等、また東海岸から南部にかけては柑橘・野菜・養蚕等を重点に振興をはかる。この場合、特に羊角湾総合開発事業の着実な推進、水利用・防風・段丘にかかる技術対策、農協の広域合併による管理体制の強化等が急がねばならない。